

建設経済常任委員会 視察研修報告

委員長 北原 芳史

平成19年度建設経済常任委員会の所管事務調査の一環として中山間地域総合整備事業の取り組み状況及び事業の概要について先進地の芦北町を去る7月19日から20日にかけて、視察研修を行いました。

■視察初日（7月19日（木））

参加者

建設経済常任委員5名、執行部4名 計9名

研修地

芦北町と水俣市です。芦北地域振興局管内、農地整備課の説明を受けました。

水俣、芦北地域の総面積は、430・5km²、その76%が森林で占められ、水田3・2%、畑4・2%、その他16・6%となっており、典型的な、中山間地帯である。

農地面積は31・8km²で樹園地17・9km²（農地面積の56・3%）が急傾斜に造成された果樹園で基盤整備や用水源開発の遅れにより果樹類への、かんがい施設の整備が遅れている。このため、芦北地域の再生と創造を目指して、芦北・水俣広域農道整備事業及び中山間地域総合整備事業に取り組んでいた。

◎芦北・水俣広域農道整備事業

広域農道事業 総延長28・5kmの整備を行う計画で、平成18年度までに全延長の85%に当たる24・3kmの供用を開始。平成21年度までに全線の供用開始を目指し、工事中である。

◎水俣・芦北地区中山間総合整備事業

平坦地に比べ整備が遅れている中山間地域での条件に即した、きめ細やかな農業の展開と農業経営の安定や農村の生活環境の改善のため、平成13年度から平成14年度の2ヶ年で事業計画を策定し、平成15年度新規採択事業として国へ採択申請。現在、平成21年度事業完了に向けて、事業が進められている。

以上の事業について説明を受けた後、質疑応答、現地視察を行いました。

■視察二日目（7月20日（金））

平成15年7月20日に発生した、水俣市宝川内集地区、死者15名、重軽傷6名、全壊家屋16棟、半壊家屋2棟の土石流災害現場を視察。現在は、復旧も終わった集落の状況を見てまいりました。

研修を通じて、今、どうかしないかと農地は荒れ、放置しておくとも離農が増える。農業が衰退すると、町が衰退すると実感し、和水町の農業振興に参考にしたい。そんな決意で委員全員で取り組んでいます。



建設経済常任委員会視察研修



厚生常任委員会 視察研修報告

委員長 坂本 政光

8月16日、17日両日に渡り、厚生常任委員会所管事務調査研修視察を、厚生委員5名担当職員4名、計9名で鹿児島市と、水俣市を研修致しました。

■視察初日（8月16日（木））

まず、16日に鹿児島市大迫町の特別養護老人ホームひまわり園を視察しました。このひまわり園は、昭和43年4月社会福祉法人・中江報徳園として、県下法人第一号の特別養護老人ホームとして開設され、その後事業内容の拡大により、現在（養護老人ホーム、短期入所生活介護、デイサービス、訪問入浴、生き生きセンター、ヘルパーステーション、介護支援、グループホーム）の8事業を行っていて、湧き出る温泉を利用した天然温泉入浴サービス、天然温泉を積み込んだ移動入浴車による訪問入浴サービスが行われ、天然温泉を生かした施設であります。

研修に当り、まず、施設内の見学、平成14年に大規模な増改築が行われており、まだ新しい施設内を担当職の案内で見廻り、その後運営状況等の説明を受け、質疑応答に入りました。

施設の規模は我が町の特養とほぼ同じ位の、110床、ショートステイ30床である。

運営状況の説明を受けて感じた事は、公営施設にくらべ法人施設経営のすごさ、充実した設備、入所者にとっては住み良い環境作り（ほぼ個室又は2人室）となっており、入所率も年間97・2%の利用率との事、入所者の平均介護認定度も4.1と我が特養の3.5より0.6程度上の介護認定者との事であります。又、短期入所施設も年間を通して50%の利用率であり、年々増加しながら、入所費用は我が町より高額になっており、利用者にとっては負担増となっている。

他の事業も前年度に対比で増加傾向にあり職員、施設の努力がうかがえた。

我が町の特養も築35年以上経過しており、特養施設の整備内容充実が急務であるとの思いで、研修を終えました。

■視察二日目（8月17日（金））

翌17日は、水俣市の国保水俣市立総合医療センターを視察しました。この病院には、地元出身の坂本不出夫院長先生が勤務されており、親しみもあり、又、丁寧な説明もあり

り大幅に時間延長になり院長みずからの説明を受けました。病院の概要は、昭和28年に4診療科、98床をもって開院。昭和31年久木野村と合併し久木野診療所を設立、昭和40年湯之児病院設立、平成17年業績悪化の為、40年続けてきた湯之児病院を閉院し市立総合病院にリハビリ施設を新たに新設して、今日418床、感染病床4床、24時間体制の救急医療を行い自治体病院として、地域医療に取り組んでいるとの事。又、関連施設として久木野診療所もあり、院長みずから出向しているとの事でありました。

平成14年までは赤字経営病院であったが、ここ5年位い黒字が続いているとの事でした。経営改善に当たっては、業績の悪い病院の閉院、又、職員、医師の意識改革、又、徹底した無駄をはぶき経費の削減、今日黒字経営を続けているものの、今後課題を多くかかえているとの事でありました。

平成14年度以降から実施されている医療制度改革により、現在医師、看護師の確保が非常に困難な状況になっており、現在医師確保の為、市側と協

議し、官舎を建設中であり、医師確保に努めているとの事でした。自治体病院がかえる問題点を指摘され、我が町立病院のかかえる問題も同じであると認識したところです。今日公立病院、自治体病院の民営化がよく聞かれますが自治体病院の役割は地域のすみずみまで又、地域住民への安心安全なサービス医療が求められており、なお一層努力していかなければならない。民営化すれば済む問題ではないとししみじみ話をされました。

研修に当り規模こそちがってはいませんが、病院の経営面だけでなく、住民への安心安全な医療の大事さをあらためて認識させられた今回の研修でありました。以上、厚生常任委員長報告と致します。



厚生常任委員会視察研修